

山田 隆之（やまだ・たかゆき）

1、プロフィール

脚本家。戦後八戸の演劇活動の復興先駆者。上京後、ラジオドラマ作家として活躍（NHK等）。その後、テレビ・映画の時代劇のドラマ脚本の作者として活躍する。

<生没>

1923(大正 12)年5月 14 日～1994(平成6)年5月 16 日

<代表作>

「座頭市シリーズ」や「必殺仕掛人」・「必殺仕置人」、「木枯らし紋次郎」、「柳生一族の陰謀」等。

<青森との関わり>

八戸生まれで、八戸中学を経て早稲田大学に入学するが、学徒出陣。復員後、八戸に戻り、青年公社設立に参加。

2、作家解説

大正 12 年5月 14 日、八戸町に生まれる。八戸中学卒業後、早稲田大学に進学。文芸の道を志し、在学時代の仲間には劇作家の八代静一がいた。在学中の昭和 18 年に学徒出陣。軍隊同期には作家の司馬遼太郎がいた（『街道をゆく』の「陸奥のみち」の<鮫の宿>に友人のYとして登場している）。モンゴルの戦車隊で一緒だった。

復員後八戸に戻り、自宅が東奥日報社八戸支局の前で、一時東奥日報の仕事を手伝っていた。また昭和 20 年の終戦後の青年公社設立に参加する。貸本の青年文庫を作ったり、英会話の講座、レコード鑑賞、社交ダンスの講習会、演劇の上演等、文化活動の拠点であった。文化活動のリーダーでもあり、昭和 20 年 10 月創刊のはまなす詩社の同人誌に詩を寄稿している。昭和 22 年9月末に八戸小学校講堂で、エドモンド・ロスタンの名作を翻案した「シラノの恋」を2日間上演し

た。翻案・演出、役者も演じている。「八戸新劇運動の 15 年振りの復活」と評された。戦後八戸の演劇活動の復興先駆者であった。その後、青年公社は「にんじん」・「郭公」を上演する。

昭和 24 年に上京。ラジオドラマのシナリオを執筆。昭和 28 年NHKドラマ国クールで「落盤」が2席に入選し、翌年にも「化粧」が2席となる。「人間の条件」や「日本女性史」等のヒット作や「北の祭」等を生み出す。テレビの時代になると、勝新太郎の出演する「座頭市シリーズ」、「必殺仕掛人」・「必殺仕置人」、「木枯らし紋次郎」、「遠山の金さん」、「柳生一族の陰謀」、「服部半蔵 影の軍団」等、人気時代劇テレビドラマのシナリオを多数執筆した。映画では、友人の司馬遼太郎原作の「忍びの衆」等の脚本を執筆する。

平成6年5月16日、埼玉県秩父市の自宅で死去。行年 71 歳。